令和7年度　現地研修会（第10回）（報告）

～瀬戸のはげ山復旧及び都市近郊の景観に配慮した治山工法について～

○　主　催　：　一般社団法人森林技術コンサルタンツ協議会
　　都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会
○　日　時　：　令和7年 11月14 日（金）　10:00～16:00
○　参加費　：　無料
○　場　所　：　愛知県瀬戸市萩殿町地内、東印所地内他
○　行　程　：

10:00～10:45　JR 名古屋駅～萩御殿南公園駐車場移動
10:45～10:50　主催者等あいさつ
10:50～11:15　萩御殿と瀬戸のはげ山復旧視察
11:15～11:30　移動
11:30～12:00　ホフマン工法視察
12:00～12:15　移動
12:15～13:15　昼食 道の駅瀬戸しなの
13:15～13:30　移動
13:30～14:45　岩屋堂公園治山工事視察
14:45～14:55　質疑応答
14:55～15:00　閉会あいさつ
15:00　解散
15:00～16:00　岩屋堂公園～JR名古屋駅移動

○　研修講師　：　（株）中部森林技術コンサルタンツ 兼松和重氏
　　（株）中部森林技術コンサルタンツ 児波昌則

○　研修内容

初めに、瀬戸市萩殿町地内にある萩御殿を訪れ、瀬戸のはげ山復旧の状況を視察した。日本の三大はげ山に数えられた瀬戸市の尾張丘陵の復旧のため、明治33年以降、階段状の積苗工等による大規模はげ山復旧工事が実施された。明治43年には、皇太子殿下（後の大正天皇が行啓され、その際に見学用に使用された建物が萩御殿と呼ばれていて、現在は復元されている。戦後再び荒廃した森林に対して昭和22年から昭和44年にかけて改めてはげ山復旧工事が行われた。現在は、完全に森林に復旧し、治山工事の後は目視することはできないが、一部に階段状の地形や、石積みの堰堤を見ることができた。次に、瀬戸市

東印所町地内のホフマン工事跡地を視察した。明治38年、東京帝国大学農科大学の雇教師であったアメリゴ•ホフマン氏が設計を指導した治山施工地である。経費のかかる法切工•山腹工を省略し、渓床縦断面図に基づいて、土堰堤と柳柵工を用いて安定勾配を作り、山脚を固定して、植生を回復させる渓間工が施工された。近代科学に基礎を置く設計思想で、その後の治山技術の発展に大きな影響を与えた。その後、道の駅で昼食をとり、最後の視察地である岩屋堂公園に移動した。愛知高原国定公園内にある紅葉の景観で有名な都市近郊の公園である。保健保安林•土砂流出防備保安林の指定されているため、景観に配慮した治山工事が行われていた。流木対策として鋼管スリットが入った谷止工や木製校倉式の谷止工が施工されていた。また、景観に配慮した落石対策として、ロープ状やラス金網による固定工を見ることができた。日本の治山事業の嚆矢となった歴史的な治山施工地と、最新の治山技術の現状を視察することができ、熱心な質疑応答も行われた。

○参加者: 全参加者47名

- •受講者:26名　事務局:7名
- •中部森林管理局•署:5名
- •愛知県森林保全課、尾張農林水産事務所:6名

○本研修会は JAFEE 認定プログラムとして実施（CPD3単位）

以上

（別紙）

（萩御殿）

（石積みの堰堤）

（ホフマン工事の説明）

（ホフマン工事の現状）

（鋼管スリットが入った谷止工）

（木製校倉式の谷止工）